

# 福井県 防災教育の手引き

平成25年3月  
福井県教育委員会

# 学校における防災教育を推進するにあたって

## 1 防災教育指導計画の作成

学年に応じた目標と指導内容を明確にした「防災教育指導計画」を学級担任と各教科の教員が作成し、防災教育を推進していくことで、児童・生徒の防災意識の定着を図る。

## 2 特別活動での防災教育

- 学級（ホームルーム）活動【各学年3時間 学級担任が授業実施】
  - ・「防災教育の手引き」に示されている授業展開例を活用
  - ・日常の朝の会、帰りの会、ショートホームルーム等を活用することも可能
- 避難訓練【年間2～3回 学校行事として実施】
  - ・避難訓練の事前または事後指導と学級活動の指導と関連付けて授業実施

## 3 各教科での防災教育

各教科等（各教科、道徳、総合的な学習の時間を含む）において、効果的な学習が進められるよう、防災に関連する内容を学習指導計画に積極的に取り入れ指導を行う。

# 学校の防災マニュアルの見直しについて

## 1 チェックリストの活用

各学校のマニュアルを改訂するには、右のチェックリストを活用し、各学校で作成している防災マニュアルを確認し、必要な項目について、追加、修正を行う。

防災マニュアルのチェックリスト

災害発生時の対応	参考ページ	地震		津波		水害		土砂災害		強風豪雨	
		作成済	追加修正	作成済	追加修正	作成済	追加修正	作成済	追加修正	作成済	追加修正
(1) 避難経路	9～12										
(2) 安否確認	13										
(3) 対策本部の設置	14～15										
(4) 引き渡し	16～19										
災害発生後の対応	参考ページ	作成済	追加修正	作成済	追加修正	作成済	追加修正	作成済	追加修正	作成済	追加修正
(5) 避難所協力	20										
(6) 心のケア	21～22										
(7) 学校再開に向けて	23										
平常時の危機管理	参考ページ	作成済	追加修正	作成済	追加修正	作成済	追加修正	作成済	追加修正	作成済	追加修正
(1) 体制整備	24～25										
(2) 安全点検	27～28										
(3) 避難訓練	29～30										
(4) 教職員の研修	31										
(5) 人材の活用	31										
(6) 備蓄	32										

## 2 マニュアル改訂後の見直し

マニュアルを見直した後も、避難訓練の成果や課題、地域住民の意見、専門家の助言などを参考に、マニュアルの内容について随時見直しを行っていく。

また、天候や交通事情の変化を考慮し、避難経路については、複数の経路を設定し、必ず実地見分を行いその状況を確認し必要に応じてマニュアルの改訂を行う。

# 防災教育の手引き

I	防災教育の目標	P 1
II	防災教育の進め方	P 2
III	防災教育指導計画	P 3
IV	児童生徒への防災教育について	P 4
V	防災教育と各教科の関連について	P 5 ~ 7
VI	校種別の防災教育について	
	【小学校 低学年】	P 8 ~ 9
	【小学校 中学年】	P 10 ~ 11
	【小学校 高学年】	P 12 ~ 14
	【中学校】	P 15 ~ 17
	【高等学校】	P 18 ~ 20
	【特別支援学校、小・中学校に設置されている特別支援学級】	P 21 ~ 24
	※ 校種別の内容	
	1 目標	
	2 関連する教科学習の指導内容	
	3 学習の流れ（例）	
	4 学習の展開例（概略）	
VII	地域の特性等を踏まえた防災教育の実施	P 25
VIII	防災教育の指導内容（例）	P 25
IX	教職員の研修	P 26
X	防災教育に活用できる資料	P 26
XI	防災教育に活用できるホームページ一覧	P 27

## I 防災教育の目標

### ○ 自分の命は自分で守る

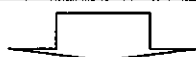
災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて、的確な判断の下に、自らの安全を確保するために主体的に行動ができるようにする。

### ○ 地域の自然環境を知り、災害や防災について知る

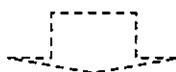
地域の自然環境、自然災害の発生メカニズム、被害や防災などを知り、災害から身を守る行動に活かすことができるようにする。

### ○ 周りの人たちのことを考えられる心を育てる

災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に気配りができるようにする。



災害発生時に、自ら危険を予測し、身の安全を守るための能力を身に付け、自らの安全を確保する（命を守る）ことのできる児童・生徒の育成



子どもたちは、10年経てば大人になる。20年経てば親になる。子どもたちへの教育をしっかりすれば、10年、20年後には防災意識の高い大人、親に成長



防災意識の高い親が子どもを育て、災害から身を守る意識と術が次世代に継承



防災意識の高い文化の醸成と定着・継承

各学校では、防災教育のねらいに基づき、地域の特性や実態を十分に踏まえた計画を立てた上で、発達段階に応じて、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等を活用して、地震、津波、水害、土砂災害等のような自然災害についての内容を取り扱い、子どもたちが災害に対する備え、災害発生時の対処行動等、自らの命を自ら守る能力を身につけるための教育を推進する。

また、災害の恐怖・厳しさといった一面をのみを扱うだけでなく、自然の豊かさ・自然からの恵みを享受していることについても併せて指導し、自分たちが住んでいる福井への郷土愛を育む。

## II 防災教育の進め方

防災教育は、児童・生徒の発達段階、地域の特性や学校の実態に応じて指導内容を検討し、各教科、道徳、「総合的な学習の時間」、特別活動など、教育活動全体を通じて計画的に進めることが大切である。

### 1 指導内容の策定

- (1) 学校の立地、自然環境から想定される災害への対応
  - ・ 海岸沿いならば地震・津波、山沿いならば地震・土砂災害などを想定
- (2) 学校以外（自宅や旅行先）で災害にあった場合の対応
  - ・ 地震、津波、大雨、強風、雷などの自然災害からの避難行動
  - ※「手引き、指導教材」をもとに、防災教育の指導計画を作成し、計画的に指導を行う。

### 2 指導時間の確保【防災に関連する学習として、年間8～10時間程度実施】

- (1) 学級（ホームルーム）活動 2時間程度（避難訓練と関連させて実施例 6月地震 11月津波）  
（例）指導教材による授業（授業例 地震、津波、風水害などの危険、避難方法の指導）
- (2) 学校行事（避難訓練 年2回実施）2時間程度（避難訓練の実施時期 例 6月、11月）  
（例）文科省防災指導教材（DVD）にある災害の映像資料を使った授業（例 地震、津波）
- (3) 教科学習の中での防災教育（4～6時間程度）
  - ・ 災害と関連する内容を扱う授業で、災害時の対応についても指導
  - （例）流れる水の働き（小 理科）、地震発生メカニズム、地層、自然の恵みと災害（中 理科）  
エネルギー資源（原子力や放射線）、原子力の利用に関する学習（中 理科、高校 物理）  
校区内の防災マップの作成（小 学校総合的な学習の時間）  
地域の地形や気候などの自然環境、災害や事故を防ぐ対策（小 社会）

### 3 「学校防災推進期間」、「学校安全防災の日」の設定

- (1) 学校防災推進期間  
本県では、昭和23年6月28日の福井地震、平成16年7月18日の福井豪雨の大きな災害があった。これらの災害を踏まえ、毎年6月21日から7月20日の期間を「学校防災推進期間」とし、県内の学校において防災に関する学習や避難訓練を重点的に実施し、子どもたちが災害から命を守り、災害に対して的確な避難行動が身に付けられるようにする。
- (2) 学校安全防災の日  
学校の施設・設備の定期的な安全点検の実施、様々な災害を想定しての避難訓練、防災に関する学習を実施する。  
（例）：安全点検、避難訓練
  - ・ 非構造物の安全確認（本棚の固定、ピアノの位置等）、避難経路の確保（避難口の開閉・避難場所の確認等）、持ち出し品（人員確認表、防災に関する備蓄品、救急用品等）
  - ・ 避難訓練（休み時間の対応、緊急地震速報の対応等）

### 4 避難訓練、防災マニュアル（防災管理）との関連

防災学習を計画する際に、学校や地域における防災避難訓練等との連携を図る取組なども考慮する。また、防災マニュアル（防災管理）を常に点検し、内容に変更があった場合は、防災教育の内容を見直します。

### Ⅲ 防災教育指導計画

		学校行事	展開例および関連する教科	
小学校	1・2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月避難訓練</li> <li>・ 11月避難訓練</li> <li>・ 引き渡し訓練</li> </ul>	展開例① 題材「地しんがきたらどうする」	P 9
			展開例② 題材「地しんがおさまったらどうするの」	P 9
	関連する教科：生活科、道徳、特別活動			
小学校	3・4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月避難訓練</li> <li>・ 11月避難訓練</li> <li>・ 引き渡し訓練</li> </ul>	展開例① 題材「さいがいから命を守るために」	P 11
			展開例② 題材「地震だ！ まず自分の身を守ろう」	P 11
			展開例③ 題材「大雨！強風！かみなり注意」	P 11
関連する教科：社会、道徳、特別活動				
小学校	5・6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月避難訓練</li> <li>・ 11月避難訓練</li> <li>・ 引き渡し訓練</li> <li>・ 心肺蘇生法</li> </ul>	展開例① 題材「災害から命を守るために」	P 13
			展開例② 題材「地震だ！ まず自分の身を守ろう」	P 13
			展開例③ 題材「地震がおさまっても注意しよう」	P 13
			展開例④ 題材「気をつけて！激しい大雨や強風」	P 14
			展開例⑤ 題材「災害後の暮らし」（助け合おう 災害後の生活）	P 14
			展開例⑥ 題材「心のケア「大きな災害の後で」	P 14
関連する教科：社会、理科、家庭、道徳、総合的な学習の時間、特別活動				
中学校		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月避難訓練</li> <li>・ 11月避難訓練</li> <li>・ 引き渡し訓練</li> <li>・ 心肺蘇生法</li> </ul>	展開例① 題材「災害から身を守ろう」	P 16
			展開例② 題材「地震！命を守れ！」	P 16
			展開例③ 題材「地震・津波！命を守れ！」	P 16
			展開例④ 題材「風水害に注意しよう」	P 17
			展開例⑤ 題材「雷に注意しよう」	P 17
			展開例⑥ 題材「災害後の暮らし」	P 17
関連する教科：社会、理科、保健体育、道徳、総合的な学習の時間、特別活動				
高校		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月避難訓練</li> <li>・ 11月避難訓練</li> <li>・ 心肺蘇生法</li> </ul>	展開例① 題材「災害から命を守る」	P 19
			展開例② 題材「地震・津波から命を守る」	P 19
			展開例③ 題材「強風・大雨に注意する」	P 19
			展開例④ 題材「落雷から命を守る」	P 20
			展開例⑤ 題材「地域社会で支え合う」（災害後の生活）	P 20
関連する教科：地理歴史、理科、保健体育、特別活動、総合的な学習の時間				
特別支援学校		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月避難訓練</li> <li>・ 11月避難訓練</li> <li>・ 引き渡し訓練</li> <li>・ 心肺蘇生法</li> </ul>	展開例① 題材「災害から命を守る」	P 24
			小・中・高の展開例に準じる	
			関連する教科：総合的な学習の時間、特別活動、自立活動	

#### IV 児童生徒への防災教育について

学校における防災教育として、特別活動の「学級（ホームルーム）活動」、学校行事で児童・生徒への指導が実践的、具体的に展開されなければならない。

避難訓練の事前・事後指導はもちろん、日常の朝の会、帰りの会、ショートホームルーム等を有効に活用し、継続して指導することが必要である。

##### 【学級（ホームルーム）活動における指導】

校 種	目 標	学習内容（展開例）
小学校 低学年	○災害時、安全な場所を見つけ、自分で自分の命を守ることができる。 ○学習したことを家庭に伝えることができる。	展開例1 じしんがきたらどうするの 展開例2 じしんがおさまったらどうするの
小学校 中学年	○災害時、安全な場所で自分の命を守り、その後安全に避難することができる。 ○学習したことを家庭に広げることができる。	展開例1 さいがいから命を守るために 展開例2 地震だ！まず自分の身を守ろう 展開例3 大雨！強風！かみなり注意！
小学校 高学年	○災害時、安全な場所で自分の命を守り、その後安全な場所へ避難することができる。 ○身近な場所での危険個所を見つけ、日ごろから災害への備えができる。 ○学習したことを全校・家庭・地域に広げることができる。	展開例1 災害から命を守るために 展開例2 地震だ！まず自分の身を守ろう 展開例3 地震がおさまっても注意しよう！ 展開例4 気をつけて！激しい大雨や強風 展開例5 助け合おう！災害後の生活 展開例6 心のケア 大きな災害の後で
中学校	○災害時、的確な判断で自分の命を守り、状況に応じた安全な避難行動ができる。 ○災害時に自分たちにできることを考え、行動することができる。 ○学習したことを全校・家庭・地域に広げることができる。	展開例1 災害から身を守ろう！ 展開例2 地震・津波！命を守れ！① 展開例3 地震・津波！命を守れ！② 展開例4 風水害に注意しよう 展開例5 雷に注意しよう 展開例6 災害後の暮らし
高等学校	○災害時、的確な判断で自分の命を守り、状況に応じた安全な避難行動ができる。 ○災害後、災害ボランティアや復興に積極的に取り組むことができる。 ○学習したことを全校・家庭・地域に広げることができる。	展開例1 災害から命を守る 展開例2 地震・津波から命を守る 展開例3 強風・大雨に注意する 展開例4 落雷から命を守る 展開例5 地域社会で支え合う
特別支援 学校	○児童・生徒の障害の状態及び発達段階や特性等を十分考慮して、安全に避難できる目標を小学校低学年から高等学校の目標に準じて設定する。	展開例1 地震から命を守る

## V 防災教育と各教科の関連について

防災に関する能力を身につけさせるためには、特定の教科による取組だけでは不十分である。防災教育の指導内容を検討し、児童・生徒一人一人が災害に適切に対応する能力を身につけられるよう、指導の充実を図らなくてはならない。

そのために、各教科等（各教科、道徳、総合的な学習の時間を含む）において、効果的な学習が進められるよう、積極的に取り組むことが必要である。

【各教科の中で、防災教育に関連した指導内容（学習指導要領から）】

小学校 低学年	
生活科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活すること。</li> <li>○公共物や公共施設を利用し、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどが分かり、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>○健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。</li> <li>○生きることを喜び、生命を大切に作る心をもつ。</li> </ul>

小学校 中学年	
社会科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分たちの住んでいる身近な地域や市（区、町、村）について、次のことを観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。</li> <li>○地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。</li> <li>○生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。</li> </ul>
総合的な学習の時間	<p>「横断的・総合的な学習や探究的な学習」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○防災、減災を課題とした学習               <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災の視点での安全マップの作成する学習</li> <li>・地域のハザードマップを活用した地域の災害の特性を知る学習</li> </ul> </li> </ul>

小学校 高学年	
社会科	<p>（第5学年）</p> <p>我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。</p>
理科	<p>【第5学年 B 生命・地球 (3) 流水の働き】</p> <p>地面を流れる水や川の様子を観察し、流れる水の速さや量による働きの違いを調べ、流れる水の働きと土地の変化の関係についての考えをもつことができるようにする。</p> <p>【第6学年 B 生命・地球 (4) 土地のつくりと変化】</p> <p>土地やその中に含まれる物を観察し、土地のつくりや土地のでき方を調べ、土地のつくりと変化についての考えをもつことができるようにする。</p>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。</li> <li>○生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。</li> </ul>
総合的な学習の時間	<p>「横断的・総合的な学習や探究的な学習」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○防災、減災を課題とした学習               <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災の視点での安全マップの作成する学習</li> <li>・安全に生活するための地域の取り組みについての学習</li> <li>・地域のハザードマップを活用した地域の災害の特性を知る学習</li> </ul> </li> </ul>



中 学 校	
社 会	<p>【地理的分野(2)日本の様々な地域 イ世界と比べた日本の地域的特色 (7)自然環境】 世界的視野から日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させるとともに、国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させる。</p> <p>【地理的分野(2)日本の様々な地域 ウ日本の諸地域 (7)自然環境を中核とした考察】 地域の地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を中核として、それを人々の生活や産業などと関連付け、自然環境が地域の人々の生活や産業などと深い関係をもっていることや、地域の自然災害に応じた防災対策が大切であることなどについて考える。</p>
理 科	<p>【第1分野 (7)科学技術と人間 ア エネルギー (1)エネルギー資源】 人間は、水力、火力、原子力など多様な方法でエネルギーを得ていること原子力発電ではウランなどの核燃料からエネルギーを取り出していること。放射線の性質や利用などについて正しく理解させること。</p> <p>【第2分野 (2) 大地の成り立ちと変化 (1)地震の伝わり方と地球内部の働き】 地震の体験や記録を基に、その揺れの大きさや伝わり方の規則性に気付くとともに、地震の原因を地球内部の働きと関連付けてとらえ、地震に伴う土地の変化の様子を理解すること。</p> <p>【第2分野 (7) 自然と人間 (7) 自然の恵みと災害】 自然がもたらす恩恵や災害について調べ、これらを多面的、総合的にとらえて、自然と人間のかかわり方について考察すること。</p>
保 健 体 育	<p>【保健分野】 交通事故や自然災害などによる傷害は人的要因や環境要因などがかかわって発生すること。</p> <p>○自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。</p> <p>○応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、応急手当には、心肺蘇生等があること。</p>
道 徳	<p>○生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。</p> <p>○勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。</p>
総合的な学習の時間	<p>「横断的・総合的な学習や探究的な学習」</p> <p>○防災、減災を課題とした学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災の視点での安全マップの作成する学習</li> <li>・ 安全に生活するための地域の取り組みについての学習</li> <li>・ 地域のハザードマップを活用した地域の災害の特性を知る学習</li> </ul>

高 等 学 校	
公 民	<p>【現代社会 「倫理」 (2) 現代と倫理 イ 現代に生きる人間の倫理】 人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間とのかかわり、民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、倫理的な見方や考え方を身に付けさせ、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として考えを深めさせる。</p>
理 科	<p>【第1科学と人間生活 (2) 人間生活の中の科学 エ 宇宙や地球の科学】</p> <p>(1) 身近な自然景観と自然災害 身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、太陽の放射エネルギーによる作用や地球内部のエネルギーによる変動と関連付けて理解すること。</p> <p>【第2 物理基礎 (2) 様々な物理現象とエネルギーの利用 エ エネルギーとその利用】</p> <p>(7) エネルギーとその利用 人類が利用可能な水力、化石燃料、原子力、太陽光などを源とするエネルギーの特性や利用を理解する。原子力については、放射線及び原子力の利用と安全性の問題にも触れる。</p> <p>【第8 地学基礎 (2) 変動する地球 ア 活動する地球】</p> <p>(7) プレートの運動 プレートの分布と運動及びプレート運動に伴う大地形の形成について理解すること。</p> <p>(1) 火山活動と地震 火山活動と地震の発生の仕組みについて理解すること。</p> <p>【第8 地学基礎 (2) 変動する地球 エ 地球の環境】</p> <p>(7) 地球環境の科学 地球環境の変化を科学的に考察すること。</p> <p>(1) 日本の自然環境 日本の自然環境を理解し、その恩恵や災害など自然環境と人間生活とのかかわりにつ</p>

	いて考察すること。 <b>【第9 地学 (1) 地球の概観 イ 地球の内部】</b> (7) 地球の内部構造 地震波の伝わり方に基づいて地球内部の構造を理解すること。 <b>【第9 地学 (2) 地球の活動と歴史 ア 地球の活動】</b> (1) 地震と地殻変動 プレート境界における地震活動の特徴とそれに伴う地殻変動などについて理解すること。
保健体育 (保健)	<b>【現代社会と健康 オ 応急手当】</b> 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、心肺蘇生等の応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があること。
総合的な学習の時間	<b>【横断的・総合的な学習や探究的な学習】</b> ○防災、減災を課題とした学習 ・防災の視点での安全マップの作成する学習 ・安全に生活するための地域の取り組みについての学習 ・地域のハザードマップを活用した地域の災害の特性を知る学習

特別支援学校	
生活	<b>【危険防止】</b> 危険防止については、危ないことや危険な場所について知るとともに、場所や状況に応じて、自分自身を守るように適切な行動をとること、道具の正しい使い方を知ることなど。 <b>【避難訓練】</b> 避難訓練については、訓練の重要性を知ること。教師等の指示に従って避難することなどを身に付け、災害時に適切な行動ができるようにすること。
社会	<b>【公共施設】</b> 日常生活に関係の深い公共施設や公共物などの働きが分かり、それらを利用する。 <b>【社会の出来事】</b> 日常生活で経験する社会の出来事や情報メディアなどに興味や関心をもち、生産、消費などの経済活動に関する初歩的な事柄を理解する。
	<b>【我が国の地理・歴史】</b> 具体例をもとに日本の地理や各地方の生活の様子を理解することが必要である。また、各種の等 災害や公害にも触れることにより、災害や環境について関心をもち、日常生活の中で必要な注意事項を考えることにより、災害の予防や環境の保全の重要性について関心を深めるようにすることも必要である。
理科	<b>【自然】</b> 自然の事物・現象についての興味を広げ、日常生活との関係を知る。
	<b>【自然】</b> 自然の事物・現象についての初歩的な理解を図るとともに、自然と生活との関係を理解する。
家庭	<b>【道具・器具等の取扱いや安全・衛生】</b> 家庭生活で使用する道具や器具を効率的に使用し安全や衛生に気を付けながら実習をする。 <b>【家庭生活に関する事項】</b> 被服、食物、住居などに関する実習を通して、健康で安全な生活に必要な実際的な知識と技能を習得する。

※上記以外の教科について、防災教育に関連した学習の例

○小学校

算数	・雨量や津波の高さを例示しての長さや量についての学習 ・風速や流速、移動距離と時間との関係を例示した速さについての学習
家庭	・住まいの整理整頓や家具の転倒防止、避難経路確保のための家具の配置についての学習

○中学校・高校

技術	・情報ネットワークに関する学習（災害発生時の情報システムについて）
家庭	・家族の安全を考えた住まいの室内環境の整え方についての学習
地理歴史	・自然環境と人類の関わり、地域性を踏まえた災害対応の重要性についての学習

## VI 校種別の防災教育について

### 【小学校 1、2年生】

#### 1 目標

○災害時、安全な場所を見つけ、自分で自分の命を守ることができる。

- ・「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」など安全な場所を見つけ出して身を守る。
- ・津波が想定される場合は、高台（指定場所）へ避難する。

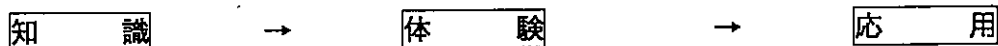
○学習したことを家庭に伝えることができる。

- ・災害や防災で学習したことや体験したことを家庭で家の人に伝える。

#### 2 教科等の防災に関連する指導内容

区分		防災に関連する指導内容	防災に関連した学習（例） （指導教材のページ）
教科	生活	○地域で生活したり働いたりしている人々 ○人々と適切に接することや安全に生活すること ○公共物や公共施設を利用、それを支えている人々	学校の周りの防災施設の見学 危険箇所の確認 校内探検（学校の防災施設） ・命を守る避難方法を扱う
	道徳	○健康や安全、規則正しい生活をする。 ○生きる喜び、生命を大切にする心	災害に関連した題材を活用
学級活動		【健康で安全な生活態度】 ○地震・津波への対応（授業展開例1，2） ○風水害（大雨、強風、雷）への対応	（指導教材 P1～6） （授業展開例 P7～10）
学校行事		【健康安全】 ○避難訓練 災害時の危険と災害時の避難の方法	（指導教材 P1～5） ・避難訓練の目的、方法

#### 3 学習の流れ（例）



事前指導	避難訓練	事後指導
災害についての簡単な知識と避難行動のしかたを知らせる。  【生活科】【学級活動】	避難訓練を通して、避難行動のしかたを体験し、災害への対応を身につける。また、家庭での対応につながるようにする。  【学校行事】	避難訓練を活用して、日常生活での心構えや災害時の避難や備えについて考えさせる。  【生活科】【学級活動】

4 学習の展開例（概略）

	○学習活動と内容 ◇教師の支援	支援（○）と評価（☆）
〔展開例 1〕	<p><b>じしんがきたらどうするの？</b></p> <p>1. 大きな地震の災害について知る。 ◇わたしたちのまちで大きな地震が起こったときについて考えてみましょう。 ◇大きな地震が発生すると学校や家、まちはどうなってしまうのでしょうか。</p> <p>2. 様々な場所で地震が起こったらどのような状況になるか想像し、地震が起きたときにどのような危険があるか、どのように身を守ればよいか考える。</p> <p>3. 地震による災害から身を守るために大切なことを確認する。 ◇地震が起こったときに身を守るにはどうしますか。 ◇地震の被害を防ぐためには、ふだんからどんなことができるのでしょうか。</p>	<p>○今まで、どんなところでどんなときに地震を経験したか話し合わせる。 ○大地震が発生するとどのような被害が発生するのか想像させる。 ☆地震による身の回りの変化を理解できたか。</p> <p>○状況や場所を具体的に示して想像させる。 ○避難の仕方、身の守り方について指導する。 ○地域の海や山を具体的に示して想像させる。周辺に海や山がない地域の場合は、遊びに行った場合などを例示する。 ☆予想される危険な事態について理解できたか。</p> <p>○まず自分の命を守る行動が大切であることを理解させる。 ○地震のときの避難の約束を確認する。 ☆安全に行動する姿勢が身に付いたか。</p>
〔展開例 2〕	<p><b>じしんがおさまったらどうするの？</b></p> <p>1. 地震の大きなゆれがおさまった後のことについて学習することを学ぶ。 ◇地震の大きなゆれがおさまった後に起こることを考えてみましょう。</p> <p>2. 地震がおさまった後、災害の現場ではどのような状況が起こるか考える。 ◇地震がおさまったら、どうしますか。 ◇家族が離れ離れのときは、どうしますか。家族で話し合ったことはありますか。 ◇地震がおさまった後に、けがをしている人や火事を見つけたらどうしますか。</p> <p>3. 地震がおさまった後、子どもが気を付けること、守らなくてはいけないことを考える。 ◇避難所のルールはどうして必要なのでしょうか。ほかには、どんな約束があるのでしょうか。</p> <p>4. 大きな災害などにあったときの心や体の不調を想像する。 ◇地震などの大きな災害で怖い体験をしたら、どんな気持ちになるのでしょうか。</p> <p>5. 地震がおさまった後の行動で大切なことを確認する。 ◇地震がおさまった後、どのようなことが大切なのか考えてみましょう。</p>	<p>○地震がおさまったら、まず家族同士や友達同士で無事を確認することを指導する。また、安全確認の方法の例を紹介する。</p> <p>○けが人や火災を発見したら、大人に知らせることの大切さを指導する。 ☆地震がおさまった後でも、危険なことや注意しなければならぬことがあることが理解できたか。</p> <p>○被災して自宅で生活ができない場合、学校などが避難所となり、集団生活を送ることを説明する。 ○なぜ、避難所のルールが必要なのかを話しルールを守ることの大切さを説明する。</p> <p>○困ったことや体調が悪いことを一人で抱え込まず、先生や家族に相談することを指導する。 ☆災害の後に起こりやすい心身の変化について気付くことができたか。 ○地震がおさまった後に、子どもが気を付けること、守ることについて、まとめとして確認する。 ☆地震がおさまった後でも、安全に行動する姿勢が身に付いたか。</p>

## 【小学校 3、4年生】

### 1 目標

○災害時、安全な場所で自分の命を守り、その後避難することができる。

- ・安全な場所を見つけて身を守り、その後安全な場所に避難する。
- ・地域の災害の種類が分かり、災害等への備えが大切であることを理解する。

○学習したことを家庭に広げることができる。

- ・災害や防災で学習したことや体験したことを家庭での防災に生かす。

### 2 教科等の防災に関連する指導内容

区分	指導内容	防災に関連した学習(例) (指導教材のページ)
教科 社会	○自分たちの住んでいる身近な地域の観察、調査 ・身近な地域の特色ある地形、土地利用の様子 ・公共施設などの場所と働き、交通の様子、 ・古くから残る建造物 ○災害及び事故の防止 ・緊急に対処する体制、安全を守る関係機関の働き	消防署、防災センターの見学 校内の危険箇所の確認 校区内探検(地域の防災施設) ・命を守る避難方法を扱う
道徳	○尊敬と感謝 ○生命の尊さ	災害に関連した題材を活用
学級活動	【健康で安全な生活態度】 ○災害から命を守る(授業展開例1) ○地震・津波への対応(授業展開例2) ○風水害(大雨、強風、雷)への対応(授業展開例3)	(指導教材P11~17) (指導教材P11~16) (授業展開例P18~23)
学校行事	【健康安全】 ○避難訓練 災害時の危険と災害時の避難の方法	(指導教材P11~17) ・避難訓練の目的、方法
総合的な 学習の時間	【横断的・総合的な学習や探究的な学習】 ○防災、減災を課題とした学習	学校周辺の防災施設、避難 場所や危険箇所を調査し、防 災マップを作成

### 3 学習の流れ(例)

知 識 → 体 験 → 応 用

事前指導	避難訓練	事後指導
災害の起こり方を理解するとともに、地域の特性を踏まえた災害から身を守る行動の仕方を身につけさせる。  【社会】【総合学習】【学級活動】	避難訓練を通して、組織的な対処や安全な行動の仕方を体験し、日常の生活に生かすことができるようにする。  【学校行事】	避難訓練を活用して、日常生活での心構えや災害時の避難や備えについてまとめる。 公共の施設や備蓄倉庫など、自分の身の回りの防災について考えさせる。  【社会】【総合学習】【学級活動】

4 学習の展開例（概略）

	○学習活動と内容 ◇教師の支援	支援（○）と評価（☆）
【展開例1】	<p><b>さいかいから命を守るために</b></p> <p>1. 災害にはどんなものがあるか考える。 ◇災害とはどんなことでしょうか。どんな災害があるでしょうか。</p> <p>2. 災害の危険について考える。 ◇災害が身近に起こったら、どんな危険にあうか考えてみましょう。 ◇ほかにはどんな危険があるでしょうか。それはどんな災害でしょうか。</p> <p>3. いつどんな状況でも災害が起こる可能性があることを理解する。 ◇災害はいつどこで起こるかわかりません。学校や家にいるときなどに災害が起こったとしたら、身を守るために自分ならどうしますか。</p> <p>4. 身を守るためには、ふだんから災害に備えておくことが大切であることを理解する。 ◇災害にあっても身を守るために、ふだんからどんなことができるでしょうか。</p>	<p>○災害とは、台風や地震などによって被害や損害を受けることを総称したものであることを説明する。</p> <p>☆様々な災害が起こることを理解できたか。</p> <p>○地域固有の災害について紹介する。</p> <p>☆予想される危険な事態について理解できたか。</p> <p>○状況や場所に応じて（学校にいるとき、家にいるとき、外で遊んでいるとき、出かけているとき、寝ているときなど）身の守り方の例を挙げて説明し、どんな身の守り方があるか意見を引き出すようにする。</p> <p>☆安全に行動する姿勢が身に付いたか。</p> <p>○ふだんから、災害に備えてどんなことができるか意見を引き出すようにする。特に避難訓練では行動の仕方を身に付けておくことが大切であることを指導する。</p> <p>☆ふだんの備えや心構えの大切さが理解できたか。</p>
【展開例2】	<p><b>地震だ！まず自分の身を守ろう</b></p> <p>1. 大きな地震の災害について学習することを学ぶ。 ◇大きな地震が発生すると学校や家、まちはどうなってしまうのでしょうか。 ◇日本は地震が多い地域であることを知っていますか。</p> <p>2. 地震が起きたときにどのような危険があるか、どのように身を守ればよいか考える。 ◇けがをしないために、自分だったらどうしますか。 ◇海や山にいるときに地震が起きたらどんなところが危ないと思いますか。</p> <p>3. 地震による災害から身を守るために大切なことを確認する。 ◇地震が起こったときに身を守るにはどうしますか。</p>	<p>○日本の各地で地震の被害があることを説明する。</p> <p>☆日本は地震が多いことを理解できたか。</p> <p>○地震のとき、津波が発生すること、津波が大きな被害につながることを説明する。</p> <p>○地域の海や山を具体的に示して想像させる。周辺に海や山がない地域の場合は、遊びに行った場合などを例示する。</p> <p>☆予想される危険な事態を理解できたか。</p> <p>○危険なことと注意することを発表させる。</p> <p>☆状況に応じた身の守り方を理解できたか。</p> <p>○まず自分の命を守る行動が大切であることを理解させる。</p> <p>○地震発生時に安全に行動できるように指導する。</p> <p>☆安全に行動する姿勢が身に付いたか。</p>
【展開例3】	<p><b>大雨！強風！かみない注意！</b></p> <p>1. 大雨や強風、雷などによる気象災害について学習することを学ぶ。 ◇大雨や強風、雷について考えてみましょう。激しい雨や風、雷を経験したことはありますか。</p> <p>2. 大雨や強風、雷によってどんな危険があるか、どのように身を守ればよいか考える。 ◇大雨や強風、雷が鳴っているとき、どんなところが危ないと思いますか。 ◇雨が上がった後、どんなところが危ないと思いますか。</p> <p>3. 災害に応じて、身を守るために大切なことを確認する。</p>	<p>○これまで経験した大雨、強風、雷について話し合わせ、それらが気象災害につながることを説明する。</p> <p>○主な危険を説明する。</p> <p>☆予想される危険な事態について理解できたか。</p> <p>☆気象災害が自分の身の回りで起こることを理解できたか。</p> <p>☆災害に応じた身の守り方があることに気付いたか。</p> <p>○災害に応じた対応を確認する。</p> <p>○気象の変化に気付いた場合は、安全に行動できるように指導する。</p> <p>☆安全に行動する姿勢が身に付いたか。</p>

## 【小学校 5、6年生】

### 1 目標

- 災害時、安全な場所で自分の命を守り、その後安全な場所に避難ができる。
  - ・災害の特性に応じた安全な場所を見つけて身を守り、その後安全な場所に避難する。
- 身近な場所での危険箇所を見つけ、日ごろから災害への備えができる。
  - ・自然災害の発生メカニズムや特性、防災体制の仕組みや災害等への備えについて理解する。
- 学習したことを全校・家庭・地域に広げることができる。
  - ・災害や防災について学習したことや体験したことを学校・家庭・地域での防災に生かす。

### 2 教科等の防災に関連する指導内容

教科	防災に関連する指導内容	防災に関連した学習(例) (指導教材の活用)
教科 科	社会 【第5学年】 ・我が国の国土の自然の様子 ・国土の環境と人々の生活や産業	環境と人々暮らしを関連させて災害への対応を扱う (指導教材 P 2 4 ~ 3 2)
	理科 【第5学年 流水の働き】 流れる水の働きと土地の変化の関係 ・雨の降り方、流れる水の速さや水の量 ・増水による土地の変化 【第6学年 土地のつくりと変化】 土地のつくりや土地のでき方 ・火山の噴火や地震によって変化すること。	(指導教材 P 3 1 ~ 3 2) ・大雨の時の注意すべき事項を指導  (指導教材 P 2 4 ~ 3 0) ・地震の発生時の命を守る対応を指導
	体育 (保健) 【けがの防止】 身の回りの生活の危険の予測と回避 応急手当の方法、心肺蘇生	(指導教材 P 2 4 ~ 3 2) ・応急手当の実習 ・心肺蘇生法の実習
道徳	○尊敬と感謝 ○生命の尊さ	災害に関連した題材を活用
学級活動	【健康で安全な生活態度】 ○災害から命を守る(授業展開例1) ○地震・津波への対応(授業展開例2, 3) ○風水害(大雨、強風、雷)への対応(授業展開例4) ○災害後の生活(授業展開例5) ○心のケア(授業展開例6)	(指導教材 P 2 4 ~ 3 0) (指導教材 P 3 1 ~ 3 2) (授業展開例 P 3 3 ~ 4 4)
学校行事	【健康安全】 ○避難訓練 災害の危険と避難の方法	(指導教材 P 2 4 ~ 3 2) 避難訓練の目的、方法
総合的な学習の時間	【横断的・総合的な学習や探究的な学習】 ○防災、減災を課題とした学習	地域の防災施設や避難場所、危険箇所を調査し、防災マップの作成

### 3 学習の流れ(例)

知 識	→	体 験	→	応 用
事前指導		避難訓練		事後指導
地震などの災害から身を守る行動の仕方を理解するとともに、下級生への安全と二次災害を防ぐ行動がとれるようにする。		避難訓練を通して、学校や家庭・地域の一員としての自覚を持ち、安全な行動の仕方を実践することができるようにする。		通学路の安全を含めた防災マップづくりを通して、児童自ら災害の危険から回避できる力を養う。
【理科】【総合学習】【学級活動】		【学校行事】		【理科】【総合学習】【学級活動】

4 学習の展開例（概略）

	○学習活動と内容 ◇教師の支援	支援（○）と評価（☆）
【展開例1】	<p><b>災害から命を守るために</b></p> <p>1. 災害にはどんなものがあるか考える。 ◇災害を経験したことがありますか。</p> <p>2. 災害の危険について考える。 ◇災害にはどんな危険があるか考えてみましょう。</p> <p>3. 大きな災害について学習し、どんな地域でも災害が起こることを理解する。 ◇どんな災害がどこで起こっているでしょうか。</p> <p>4. いつどんな状況でも災害が起こる可能性があることを理解する。 ◇災害が起こったとしたら、身を守るために自分ならどうしますか。</p> <p>5. ふだんから災害に備えておくことが大切であることを理解する。 ◇災害にあったときのために、ふだんからどんなことができるでしょうか。</p>	<p>○経験や身近な人の話、ニュースで見聞きしたことなどをヒントに意見を引き出すようにする。</p> <p>○災害とは、台風や地震などによって被害や損害を受けることを総称したものであることを説明する。</p> <p>☆様々な災害が起こることを理解できたか。</p> <p>○山でも海でも、まちの中でも、どこでも災害が起こる可能性があることを説明する。</p> <p>○過去の歴史的な災害、地域固有の災害について紹介する。</p> <p>☆国内ではどこにいても災害にあう可能性があることを理解できたか。</p> <p>○状況や場所に応じて、どんな身の守り方があるか意見を引き出すようにする。</p> <p>☆安全に行動する姿勢が身に付いたか。</p> <p>☆ふだんの備えの大切さが理解できたか。</p>
【展開例2】	<p><b>地震だ！まず自分の身を守ろう</b></p> <p>1. 大きな地震の災害について学習することを知る。 ◇大きな地震が発生すると学校や家、まちはどうなってしまうのでしょうか。 ◇日本は地震が多い地域であることを知っていますか。</p> <p>2. 様々な場所で地震が起こったらどのような状況になるか想像し、地震が起きたときにどのように身を守ればよいか考える。 ◇海や山にいるときに地震が起きたらどんなところが危ないと思いますか。 ◇海では地震によって津波、山では崖崩れが起こることがあります。けがをしないために、自分だったらどうしますか。</p>	<p>○日本の各地で地震の被害があることを説明する。</p> <p>○プレートやこれまで発生した地震の分布を示し、日本が地震の多い国土であることを説明する。</p> <p>☆日本は地震が多いことを理解できたか。</p> <p>○地震のとき、津波が発生すること、津波が大きな被害につながることを説明する。</p> <p>☆予想される危険な事態を理解できたか。</p> <p>○まず自分の命を守る行動が大切であることを理解させる。</p> <p>○日ごろの備えとして、緊急地震速報について伝え、安全に行動できるように指導する。</p> <p>☆安全に行動する姿勢が身に付いたか。</p>
【展開例3】	<p><b>地震がおさまっても注意しよう！</b></p> <p>1. 地震がおさまった後、災害の現場ではどのような状況が起こるか考える。 ◇地震がおさまったら、どうしますか。 ◇地震がおさまった後に、けがをしている人を見つけたらどうしますか。 ◇地震がおさまった後に、火事が起こることがあります。火事を見つけたらどうしますか。</p> <p>2. 地震がおさまった後、子どもが気を付けることを考える。 ◇地域の避難場所を知っていますか。 ◇家族と離れ離れになったときの集合場所や連絡方法、避難場所への行き方や途中の危険な場所などについて、家族と話し合ったことはありますか。</p> <p>3. 地震がおさまった後の行動で大切なことを確認する。 ◇地震がおさまった後、どのようなことが大切なのか考えてみましょう。</p>	<p>○地震がおさまったら、まず家族同士や友達同士で無事を確認することを指導する。</p> <p>☆大人に伝えることの大切さが理解できたか。</p> <p>○火災を発見したら大人に知らせることの大切さを指導する。</p> <p>○体育で学習する応急手当が活用できることに気付かせる。</p> <p>☆地震がおさまった後でも、危険なことや注意しなければならないことがあることが理解できたか。</p> <p>○地震がおさまった後、安全なところへ避難する場所があることを説明する。</p> <p>☆地震がおさまった後、子どもが注意しなければならないことがあることが理解できたか。</p> <p>○地域の避難場所を紹介する。</p> <p>☆ふだんの備えとして家族で話し合うことの大切さが理解できたか。</p> <p>○余震に対する注意や危険なところには近づかないことを指導する。</p> <p>☆地震がおさまった後でも、安全に行動する姿勢が身に付いたか。</p>



	○学習活動と内容 ◇教師の支援	支援 (○) と評価 (☆)
【展開例 4】	<p><b>気をつけて！激しい大雨や強風</b></p> <p>1. 大雨や強風などによる風水害について学習することを学ぶ。</p> <p>◇大雨や強風を経験したことはありますか。そのような気象によってどんな被害があるか考えてみましょう。</p> <p>2. 大雨や強風によってどんな危険があるか、災害別にどのように身を守ればよいか考える。</p> <p>◇大雨、強風、雨が上がった後、どんな所が危険でしょうか。</p> <p>3. ふだんから災害に備えて天候に関心を持つことが大切であることを理解する。</p> <p>◇災害から身を守るために、ふだんから注意できることはありますか。</p> <p>4. 災害に応じて、身を守るために大切なことを確認する。</p> <p>◇大雨、強風のとき、どのようなことが大切なのか考えてみましょう。</p>	<p>○これまの大雨、強風について話し合わせ、それらが風水害につながることを説明する。</p> <p>○地域固有の気象災害について紹介する。</p> <p>☆風水害が自分の身の回りで起こることを理解できたか。</p> <p>○身の守り方を説明する。</p> <p>○学校の近くで危ないところがある場合は、具体例を挙げて説明する。</p> <p>☆予想される危険な事態と災害に応じた身の守り方について理解できたか。</p> <p>☆天候についてふだんから関心を持つことの大切さを理解できたか。</p> <p>○災害に応じた対応を確認し、安全に行動できるように指導する。</p> <p>☆ふだんから風水害に関心を持って、安全に行動する姿勢が身に付いたか。</p>
【展開例 5】	<p><b>助け合おう！災害後の生活</b></p> <p>1. 災害後の暮らしでは、どのような状況が起こるか考える。</p> <p>◇電気、ガス、水道（飲料水、トイレなど）が使えない場合、どんな物が役に立つと思えますか。</p> <p>2. 学校が避難所になった場合どのような状況になるか考える。</p> <p>◇避難所で生活するときに、気を付けなければならないこと、どんなルールが必要でしょうか。</p> <p>3. 復興のために、地域のいろいろな人が関わっていることを理解する。</p> <p>◇自分たちに出来ることはどんなことがあるでしょうか。</p> <p>4. 災害の後の暮らしで大切なことを確認する。</p>	<p>○電気・ガス・水道・電話などのライフラインが使えない状況を想像させる。</p> <p>○主な非常用品について紹介し、ふだんから準備することの大切さ、家族で話し合っておくことの必要性を説明する。</p> <p>☆ふだんの備えの大切さが理解できたか。</p> <p>○学校が避難所になることを想像させる。</p> <p>○避難所の生活は日常の集団生活と同様にルールが大切であることに気付かせる。</p> <p>☆グループでの話し合いを通して、避難所の生活を想像し、必要なルールについて考えることができたか。</p> <p>○自分たちに出来るボランティアを考えさせる。</p> <p>☆地域の人やボランティアの活動を理解し、助け合いの姿勢が身に付いたか。</p> <p>○災害後、自分たちに出来ることを考えさせる。</p>
【展開例 6】	<p><b>心のケア「大きな災害の後で」</b></p> <p>1. 災害の後で起こる問題について学習することを学ぶ。</p> <p>2. 災害を経験することで、心や体に変化が現れることがあることを理解する。</p> <p>3. 災害の後に心や体に変化が起こりやすくなるのは、自然なことであることを理解する。</p> <p>◇災害の後で、起こりやすい心や体の変化にはどのようなことがあるでしょうか。</p> <p>4. 対処方法について考える。</p> <p>◇心に傷を受け、つらい思いをしたときなどは、ひとりで抱え込まずに、誰かに相談することが大切です。</p> <p>◇自分にあった対処方法はどんなものがあるでしょうか。</p> <p>5. 災害にあった人に対して、自分ができる支援の方法や留意点について考える。</p> <p>◇災害にあった人に、何をしてあげられるか考えてみましょう。</p>	<p>○実際に体験したことだけでなく、目撃することでも、心が傷つくことがあることを説明する。</p> <p>○PTSDは、災害以外（いじめ、虐待、DVの目撃など）でも起こるので、これらの話題が出た場合は、そのことも説明する。</p> <p>○怖い体験をした後で、心や体の変化が起こりやすいことは自然なことであることを説明する。</p> <p>☆災害の後に起こりやすい心身の変化について気付くことができたか。</p> <p>☆対処方法にはいろいろなものがあることが理解できたか。困ったことがあったらひとりで抱え込まず、誰かに相談することが理解できたか。</p> <p>○災害にあった人に、何が出来るか、接するとき留意する点について説明する。</p> <p>☆悲しんでいる人を思いやる気持ちを持てるようになったか。</p> <p>☆相手の立場に立った態度が取れるようになったか。（日常観察から）</p>

## 【中学校】

### 1 目標

- 災害時、的確な判断で自分の命を守り、状況に応じた安全な避難ができる。
  - ・災害発生時には、的確な判断で状況に応じて自らの安全を確保し避難行動ができる。
- 災害時に自分たちにできることを考え、行動ができる。
  - ・日ごろから災害に対する備えを生かし、集団や地域の人々の役に立つ行動ができる。
- 学習したことを全校・家庭・地域に広げることができる。
  - ・学校、家庭、地域の防災体制について理解を深め、防災に生かす。

### 2 教科等の防災に関連する指導内容

教科	防災に関連する指導内容	防災に関連した学習（例） （指導教材のページ）
教科	<b>社会</b> 【地理的分野 自然環境】 ○日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色 ○国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力 【地理的分野自然環境を中核とした考察】 ○地域の地形や気候などの自然環境に関する特色 ○人々の生活や産業などに関連付け、 ○自然環境と地域の人々の生活や産業などの関係 ○地域の自然災害に応じた防災対策	（指導教材 P45～52） ・地形や気候の学習の中で自然災害発生時の対応を扱う
	<b>理科</b> 【第1分野 エネルギー資源】 ○水力、火力、原子力などのエネルギー資源 ○原子力発電のウランなどの核燃料、放射線の性質や利用 【第2分野 地震の伝わり方と地球内部の働き】 ○地震の揺れの大きさや伝わり方の規則性と地震の原因 ○地震に伴う土地の変化の様子 【第2分野 自然の恵みと災害】 ○自然がもたらす恩恵や災害と自然と人間のかかわり方	（指導教材 P45～49） ・地震発生時の対応方法を指導 （指導教材 P45～52） ・各災害への対応方法を指導
	<b>保健体育（保健）</b> 【保健分野】 ○自然災害などによる傷害の発生・傷害の防止 ○災害への備え、安全な避難 ○応急手当の方法、心肺蘇生	（指導教材 P45～52） ・応急手当の実習 ・心肺蘇生法の実習
<b>道徳</b>	○自他の生命の尊重 ○勤労の尊さ、奉仕の精神、公共の福祉と社会の発展	災害、ボランティア活動に関連した題材を活用
<b>学級活動</b>	【健康で安全な生活態度】 ○災害から命を守る（授業展開例1） ○地震・津波への対応（授業展開例2, 3） ○風水害（大雨、強風）への対応（授業展開例4） ○風水害（雷）への対応災害後の生活（授業展開例5） ○災害後の暮らし（授業展開例6）	（指導教材 P45～50） （指導教材 P51～52） （授業展開例 P53～64）
<b>学校行事</b>	【健康安全】 ○避難訓練 災害の危険と避難の方法	（指導教材 P45～52） 地域との連携した実践的な避難訓練等の実施
<b>総合的な学習の時間</b>	【横断的・総合的な学習や探究的な学習】 ○防災、減災を課題とした学習	地域の防災施設や避難場所、危険箇所を調査し、防災体制の改善を提案

### 3 学習の流れ（例）

知識	→	体験	→	応用
事前指導		避難訓練		事後指導
災害発生メカニズムや危険性について理解し、災害発生時の的確な判断に基づく安全な行動の仕方について理解させる。 【理科】【総合学習】【学級活動】		避難訓練を通して、家族の一員としての自覚を持ち、災害時の安全な行動や日常の取組から中学生としてできることを考えさせる。 【学校行事】		通学路の安全を含めた防災マップづくりなど、自分の住んでいる地域の安全について関心を持ち、災害時の望ましい行動のあり方について考えさせる。 【社会】【総合学習】

4 学習の展開例（概略）

	○学習活動と内容 ◇教師の支援	支援（○）と評価（☆）
【展開例1】	<p><b>災害から身を守ろう</b></p> <p>1. 日本で起こる自然災害にはどのような災害があるか考える。 ◇日本では過去にどのような自然災害がありましたか。</p> <p>2. 自然災害から命を守るために、何に注意し、どう行動すればよいかを考える。 ◇地震や台風などにはどのような危険がありますか。 ◇学校にいる時や通学中に地震が発生した時に、どのようにして身を守りますか。 ◇避難する場合、どのようなことに注意し、どこへ避難しますか。</p> <p>3. 避難生活について知り、どのような備えが必要か考える。 ◇災害が起こった時や避難生活のために、普段からどのような備えが必要ですか。どのようなことが中学生にできますか。</p>	<p>○経験やニュースで見聞きした事から考えさせる。 ☆様々な災害が起こることを理解できたか。</p> <p>○地震や台風などには、どのような危険があるか考えさせる。 ☆「自分の命は自分で守る」という基本的な考え方や、「命の大切さ」を理解できたか。</p> <p>○災害でライフラインが使えなくなることに触れて考えさせる。 ☆普段から災害に備えておくことが大切であることを理解できたか。</p> <p>○避難所等におけるルールやマナー、思いやりについて考えさせる。 ○普段から、ボランティア活動などを通して、地域住民との交流を持つておくことの大切さを説明する。 ☆災害時に地域住民等とともに行動することの大切さについて理解できたか。</p>
【展開例2】	<p><b>地震・津波！命を守れ！①</b></p> <p>1. 地震・津波について学習することを知る。 ◇日本では過去にどのような地震や津波による被害がありましたか。</p> <p>2. 地震や津波はどのようにして発生するか、そのメカニズムを考える。 ◇地震や津波はどのようにして発生するか考えましょう。 ◇私たちの住む地域で発生した地震や津波を知っていますか。また、どのようなプレートや活断層がありますか。</p> <p>3. 様々な場所で地震が起こった時に、どのような危険があり、どのように身を守ればよいか考える。 ◇大きな地震が発生すると学校や家、地域はどうなりますか。 ◇地震が発生した時に、どのようにして身を守りますか。</p>	<p>○地震や津波の発生のメカニズムを考えさせる。 ○生徒の住む地域にどのような地震や津波が発生しているか考えさせる。 ○活断層の図などを示し、発生のメカニズムや活断層について説明する。 ☆地震や津波がどのようにして発生するか理解できたか。</p> <p>○大きな地震が発生すると学校や家、地域はどうなってしまうか考えさせる。 ○地震が起こった時に、どのようにして身を守ればよいか場所別に発表させる。 ☆地震発生時の身の守り方を理解できたか。</p>
【展開例3】	<p><b>地震・津波！命を守れ！②</b></p> <p>1. 地震が収まった後について学習することを知る。 2. 地震の揺れが収まった後、どのような危険があり、どのように対応すればよいか考える。 ◇津波や土砂崩れから、どのようにして避難しますか。</p> <p>3. 地震の時に、落ち着いた行動ができるよう、普段からどのような備えができるか考える。 ◇地域の防災訓練やボランティア活動などに参加したことがありますか。</p> <p>4. 避難した後に、地域の中で何ができるかを考える。 ◇避難した後の地域活動について考えましょう。 ◇大きな地震が起こった後に、中学生としてどのようなことができますか。</p>	<p>○地震による津波や土砂崩れなどが発生する危険を説明する。 ☆地震が収まった後に起こる危険を理解できたか。</p> <p>○自分ができる範囲で、消火活動や人命救助をすることを理解させ、身近にある初期消火の道具を説明する。 ☆地震が収まった後に、できることを理解できたか。</p> <p>○家庭での地震に対する普段からの備えについて考えさせる。 ○地域の人々との助け合いや連携の大切さや地域の防災訓練やボランティア活動などの必要性について説明する。 ☆地震に対する普段からの備えを理解できたか。</p> <p>○地震が発生した時に、中学生として、何ができるか、何をすべきかを発表させる。 ☆防災意識が高まり、中学生としてできることを理解できたか。</p>

	○学習活動と内容 ◇教師の支援	支援 (○) と評価 (☆)
【展開例4】	<p><b>風水害に注意しよう</b></p> <p>1. 気象災害（風水害）について学習することを 知る。 ◇過去にどのような風水害がありましたか。</p> <p>2. 台風、大雨、竜巻などはどのようにして 発生するか、そのメカニズムを考える。</p> <p>3. 台風、大雨、竜巻などが起こった時に、 どのように身を守ればよいか考える。 ◇川遊びで、急に水かさが増えてきたら、ど うしますか。 ◇竜巻が発生した時に、どのようにして身 を守りますか。</p> <p>4. 台風や大雨などから身を守るために、普 段からどのような備えができるか考える。 ◇台風や大雨に対し、屋内外でどのような備 えをしていますか。 ◇台風や大雨が去った後に、注意することは ありますか。</p>	<p>○台風、大雨、竜巻などの発生のメカニズムを 説明する。（大雪も紹介する。） ☆台風、大雨、竜巻などの発生のメカニズムを 理解できたか。</p> <p>○大雨の時、台風の時、雨が上がった後、ど のような場所が危険か説明する。</p> <p>○台風や大雨などは気象庁の出す注意報や警 報に注意し、危険が迫る前に避難することが 大切であることを説明する。 ☆台風や大雨などによる被害と対応策につ いて理解できたか。</p> <p>○河川の上流の雲等の様子などから避難す ることを説明する。</p> <p>○雨や風の強さと被害の程度から危険の目安 を説明する。</p> <p>○竜巻は局地的で、予報には限界があり、早 めに避難することが必要なことを説明する。</p>
【展開例5】	<p><b>雷に注意しよう</b></p> <p>1. 気象災害（落雷）について学習すること を知る。 ◇落雷によってどのような被害があるで しょうか。 ◇私たちの住む地域で、どのような落雷の被 害がありますか。</p> <p>2. 雷はどのようにして発生し、落雷するの か、そのメカニズムを考える。</p> <p>3. 雷が発生した時に、どのような危険があ るか考える。 ◇落雷に対して安全な場所はどのようなと ころですか。</p> <p>4. 落雷の被害者を救うために何をすればよ いか、また、落雷から身を守るために普段 からどんな備えができるか考える。 ◇雷の被害から身を守るために、普段から注 意していることはありますか。 ◇もし、落雷で倒れている人がいたら中学生 としてどのようなことができますか。</p>	<p>○落雷の直撃を受けると命を落としたり、火災 が発生したりすることを説明する。</p> <p>○気象庁、電力会社などの情報や過去の落雷事 故などに触れて説明する。 ☆落雷の被害を理解できたか。</p> <p>○どのような気象状況で雷が発生するか、発生 のメカニズムを説明する。 ☆雷の発生し、落雷について理解できたか。</p> <p>○落雷に対して安全な場所について説明する。 ☆どこにでも落雷することを理解できたか。</p> <p>○落雷から身を守るために普段から注意して おくことを考えさせる。</p> <p>○気象情報に注意することの大切さを説明す る。野外での活動中、雷に気付いた時の避難 する場所を決めておくことの大切さにつ いて説明する。</p> <p>○落雷で倒れている人がいたらどうするか発 表させる。 ☆雷の災害に備えることの大切さを理解でき たか。</p>
【展開例6】	<p><b>災害後の暮らし</b></p> <p>1. 災害後の暮らしでは、どのような状況が 起こるか考える。 ◇電気、ガス、水道、電話が使えない状況で は、どうしますか。</p> <p>2. 大きな災害の後では、学校が避難所にな り、どのような状況になるか考える。 ◇避難所の生活では、どのようなルールやマ ナーが必要ですか。</p> <p>3. 災害後の精神的なショックや心のケアに ついて考える。 ◇災害後の心のケアについて考えましょう。 ◇全国から駆けつけてくれたボランティア の人たちと一緒に中学生としてどのよう なことができますか。</p>	<p>○電気、ガス、水道、電話などのライフライン が使えない場合のために普段から準備して おけるものは何かを考えさせる。</p> <p>○家族との連絡方法や普段から準備しておく ものを家族と話し合っておく必要性を説明 する。 ☆普段から非常用品などを備えておくこと の大切さを理解できたか。</p> <p>○避難所等の生活はルールやマナーが大切で あることを考えさせる。 ☆避難所等の生活に必要なルールやマナーを 理解できたか。</p> <p>○災害で大きな精神的ショックを受けると心 が不安定になる場合があり、「心のケア」が必 要になることを説明する。 ☆ボランティア活動の大切さを理解できたか。</p>

# 【高等学校】

## 1 目 標

- 災害時、的確な判断で自分の命を守り、状況に応じた安全な避難行動ができる。
  - ・災害発生時には的確な判断により、状況に応じて自らの安全を確保するための行動ができる
- 災害後、災害ボランティアや復興に積極的に取り組むことができる。
  - ・日ごろから災害に対する備えを生かし、進んで集団や地域の人々の役に立つ行動ができる。
- 学習したことを全校・家庭・地域に広げることができる。
  - ・学校、家庭、地域の防災体制について理解を深め、学習したことを進んで防災に生かす。

## 2 教科等の防災に関連する指導内容

区分	防災に関連する指導内容	防災に関連した学習(例) (指導教材のページ)
教 科	公民 【現代社会「倫理」 現代に生きる人間の倫理】 ○人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間との関わり ○社会参加と奉仕、自己実現と幸福 ○倫理的な見方や考え方、他者と共に生きる自己の生き方	(指導教材 P 6 5 ~ 7 2) ・自然災害発生時の対応を扱う ・災害ボランティアへの参加
	理科 【科学と人間生活宇宙や地球の科学】 ○自然景観の成り立ちと自然災害 ○太陽の放射エネルギーの作用や地球内部エネルギーによる変動 【物理基礎 エネルギーとその利用】 ○水力、化石燃料、原子力、太陽光のエネルギーの特性や利用 ○放射線及び原子力の利用と安全性の問題 【地学基礎 活動する地球】 ○プレートの分布と運動及びプレート運動に伴う大地形の形成 ○火山活動と地震の発生の仕組み(授業展開例 2) ○地球環境の変化(授業展開例 3, 4) ○自然の恩恵や災害、自然環境と人間生活とのかかわり 【地学 地球の内部】 ○地震波の伝わり方 ○プレート境界における地震活動の特徴と地殻変動	(指導教材 P 6 5 ~ 7 2) ・自然災害発生時の対応確認  (指導教材 P 6 5 ~ 6 8) ・地震への対応の確認 (指導教材 P 6 9 ~ 7 2) ・津波、風水害への対応確認 (指導教材 P 2 ~ 4) ・地震への対応確認
	保健 体育 (保健) 【応急手当】 ○応急手当の正しい手順や方法 ○心肺蘇生等の応急手当	(指導教材 P 6 5 ~ 7 2) ・応急手当の実習 ・心肺蘇生法の実習
ホームルーム活動	○災害から命を守る(授業展開例 1) ○地震・津波への対応(授業展開例 2) ○風水害(大雨、強風)への対応(授業展開例 3) ○風水害(雷)への対応災害後の生活(授業展開例 4) ○地域社会で支え合う(授業展開例 5)	(指導教材 P 6 5 ~ 7 0) (指導教材 P 7 1, 7 2) (指導教材 P 7 1) (授業展開例 7 3 ~ 8 2)
学校行事	【健康安全】 ○避難訓練 ・地域の関係機関と連携した実践的な避難訓練の実施 ・地域と一体になった防災訓練の実施	(指導教材 P 6 5 ~ 7 2) ・地域と一体になった防災訓練の実施 ・災害ボランティアへの参加
総合的な 学習の時間	【横断的・総合的な学習や探究的な学習】 ○防災、減災を課題とした学習	小・中学校への防災出前授業を計画し、生徒が研究した防災に関する内容を発表

## 3 学習の流れ(例)

知 識	→	体 験	→	応 用
事前指導		避難訓練		事後指導
災害発生時の的確な判断に基づく安全な行動の仕方と地域社会の安全に関する活動等について理解させる。 【ホームルーム】		避難訓練を通して、地域社会の一員としての自覚を持ち、安全に関する適切な行動や応急手当の仕方を身につけさせる。 【学校行事】【保健体育】		自他の生命を尊重する態度及び地域社会に積極的に貢献する態度を養う。  【ホームルーム】

4 学習の展開例（概略）

	○学習活動と内容 ◇教師の支援	支援（○）と評価（☆）
【展開例1】	<p><b>災害から命を守る</b></p> <p>1. 「様々な自然災害」について、資料を見て考える。</p> <p>○ 過去に世界や日本でどのような自然災害があったでしょう。</p> <p>2. 災害はいつどこで起こるかわかりません。学校や通学途中で地震や雷が発生した場合、どのようにして身を守りますか。</p> <p>3. 災害発生時や災害後の生活のために、どのような備えが必要かを考える。</p>	<p>○ 様々な自然災害の危険や安全な行動を考えていくきっかけをつくる。</p> <p>○ 最近の自然災害などについてふれる。</p> <p>○ 地震や台風などには、どのような危険があるかを考えさせる。</p> <p>○ 自然災害から自分の身を守る方法を地震、台風、雷などに分けて発表させる。</p> <p>○ 地震・津波、火山、台風・大雨、落雷ごとに身の守り方をまとめる。</p> <p>○ どんな備えが必要かを考えさせる。</p>
【展開例2】	<p><b>地震・津波から命を守る</b></p> <p>1. 「地震・津波による被害と発生メカニズム」について資料を見て考える。</p> <p>○ 過去に世界や日本で発生した地震や津波を知っていますか。</p> <p>2. 「地震・津波から身を守る」について資料を見て考える。</p> <p>○ 地震発生時、どのようにして身を守りますか。</p> <p>3. 大きな地震が発生したら、高校生として何かできるか考える。</p>	<p>○ 各地で発生する地震や津波について考えていくきっかけをつくる。</p> <p>○ 最近の地震・津波災害などについてふれる。</p> <p>○ 地震発生時に自分の身を守る方法を発表させる。</p> <p>○ 具体的な場面（体育館、街中の道路等）をあげ、「どこが安全か、どのように行動するか」を発表させる。</p> <p>○ 地震発生時、津波警報発表時の避難の大切さを説明する。</p> <p>○ 地域社会の安全のために、何かできるか、何をすべきかを発表させる</p> <p>○ どんな備えが必要かを考えさせる。</p>
【展開例3】	<p><b>強風・大雨に注意する</b></p> <p>2 「台風・大雨等による被害と発生のメカニズム」について映像資料を見て考える</p> <p>○ 過去に世界や日本で発生した風水害を知っていますか。</p> <p>3 「台風・大雨等に備える」について考える。</p> <p>○ 台風や大雨からどのようにして身を守るかを考える。</p> <p>4 台風や大雨の被害が発生したら、高校生として何かできるか考える。</p>	<p>○ 各地で発生する風水害について考えていくきっかけをつくる。</p> <p>○ 最近の風水害についてふれる。</p> <p>○ 台風や大雨から自分の身を守る方法を発表させる。</p> <p>○ 気象情報に注意し、早めに避難することが重要であることを説明する。</p> <p>○ 河川等にいる場合の注意（川上の天気の様子に注意することなど）についてふれる。</p> <p>○ 地域社会の安全のために、何かできるか、何をすべきかを発表させる。</p>

	○学習活動と内容 ◇教師の支援	支援 (○) と評価 (☆)
【展開例4】	<p><b>落雷から命を守る</b></p> <p>1. 「落雷による被害と雷のメカニズム」について考える。</p> <p>○ 日本で発生した落雷被害を知っていますか。</p> <p>2. 「落雷から身を守る」ことについて考える。</p> <p>○ 落雷からどのようにして身を守るかを考える。</p> <p>○ 分厚い黒い雲近付いてきたらすぐに避難するなど、遠いと思っても落雷の危険性があることを理解できるようにする。</p>	<p>○ 発生する落雷被害について考えていくきっかけをつくる。</p> <p>○ 最近の落雷被害についてふれる。</p> <p>○ 落雷から自分の身を守る方法を発表させる。</p> <p>○ 落雷から安全に避難する方法についてまとめる。</p> <p>○ 屋外での活動を具体的に挙げ、活動の計画の変更・中止など適切な措置を講ずることが重要であることを説明する。</p>
【展開例5】	<p><b>地域社会で支え合う</b></p> <p>1. 「災害後の暮らし」について、資料を見て考える。</p> <p>○ 地震などの災害が発生した後、どのような生活になると思いますか。</p> <p>2. 「災害後の暮らしを守る」について考える。</p> <p>○ どのようにして災害後の暮らしを守るかを考える。</p> <p>3. 災害後の暮らしを守るため、高校生として何かできるか考える。</p> <p>○被災者の人々を地域で支える活動や災害ボランティアの活動に参加・協力する姿勢を考える。</p>	<p>○ 災害後の暮らしについて考えていくきっかけをつくる。</p> <p>○ 事前にどのような備えが必要か考える。</p> <p>○ どのようにして災害後の暮らしを守るかを発表させる。</p> <p>○ 避難所生活で必要になってくることについてまとめる。</p> <p>○ 心のケアについて説明する。</p> <p>○ 地域社会の安全のために、何かできるか、何をすべきかを発表させる。</p>

※映像資料 「災害から命を守るために」文部科学省 防災教育教材（高校生用）

《参考資料》

- 「地震がわかる！」防災担当者参考資料 文部科学省
- 緊急地震速報リーフレット 気象庁
- 防災・危機管理eカレッジ（HP） 総務省消防庁
- 「大雨や台風に備えて」 気象庁
- 局地的大雨から身を守るために リーフレット 気象庁
- 竜巻から身を守る リーフレット 気象庁
- 気象庁（HP） 気象警報・注意報
- 竜巻・雷・強い雨—ナウキャストの利用と防災— リーフレット 気象庁
- 減災のてびき～今すぐできる7つの備え（改訂版）～ 内閣府
- 非常災害時における子どもの心のケアのために（改訂版） 文部科学省
- 防災教育チャレンジプラン（HP）

## 【特別支援学校、小中学校に設置されている特別支援学級】

### 1 防災教育の目標設定について

- 児童・生徒の障害の状態及び発達段階や特性等を十分考慮して、安全に避難できる目標を小学校低学年から高等学校の目標に準じて設定する。

### 2 特別支援学校等における防災教育についての配慮事項

障害のある児童・生徒は、災害時には避難、移動、情報収集、日常生活などにおいて、大変厳しい状況におかれることが予想される。そのため、特別支援学校等における児童・生徒の防災教育に際しては、小学校、中学校、高等学校の内容の他に、障害種別の主な配慮事項について、学校や地域の実態に合わせて対応を検討することが必要である。

#### (1) 子どもの障害の状況に応じた防災教育を進めること

特別支援学校等に在学する子どもたちは、災害が発生した時に支援が必要である。障害のある子ども一人一人の状況やニーズは異なる。自分で動くことができない子ども、車いすが必要な子ども、言葉でのコミュニケーションが困難な子ども、何らかの医療的ケアが常時必要な子ども等、一人一人の障害の状況は様々である。「災害発生時に子どもに必要な支援」や「子ども自身が気を付けるべきこと」等について、日頃から子どもたちの状況を把握している教職員が、一人一人の子どもの障害状況等をとらえたうえで、個に応じた防災教育を進めることが大切である。このことが、特別支援学校等における防災教育の第一歩となる。

また、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を防災教育の観点で見直すことも大切である。これらの工夫によって、子ども自身が防災への関心を高めることにつながる。

#### (2) 保護者と連携した防災教育を進めること

災害が発生したときには、子どもの安全を確保することが第一である。その次に、保護者に対して、子どもの安全の状況を迅速かつ適切に伝えることが必要である。また、特別支援学校は、スクールバスの運行や公共交通機関の利用等により、広い地域から子どもが通学しているため、学校内だけでなく登下校時の災害を想定した安全確保の取り組みも必要となる。

このように、「災害発生時の避難体制」、「保護者との連絡方法」等について、あらかじめ保護者と共通理解しておくことも必要である。子どもの安全確保とともに、保護者が安心できるよう学校の安全確保の体制を整えることが必要である。

#### (3) 学校内の状況の再点検をすること

「子どもへの防災教育」、「保護者と連携した防災教育」は、災害発生時における子どもの安全確保の上で大切なことだが、平常時の校内整備を忘れてはいけない。地震がいつ起こるかを予測することは困難だが、地震が発生したときに迅速かつ適切に対応し、より一層の安全を確保するために、日ごろから災害への備えをしておくことは大切である。例えば、「災害発生時にも、安全を確保できる教室環境であるか」、「廊下は車いす等が通行できる通路が確保されているか」、「緊急時に必要な校内の各種防災設備・機器の状況はどうか」等、定期的に学校内を点検・整備すべきである。また、教職員による防災設備・機器の利用研修を行うことも重要である。



### 3 子どもたちの障害状況別の留意点

#### (1) 視覚障害

- 体験的な学習を取り入れた、災害に対する理解を促進する。
- 災害発生時、日常とは比較にならない障害物が発生した中での避難の仕方と身の安全を守る方法について指導しておく。
- 周囲の人に声をかけて（視覚障害者であることを告げ）、周りの状況を教えてもらうことや、ヘルプカードなどを使って安全な場所や適切な機関への誘導を依頼できるようにしておく。
- 普段とはちがう避難所での生活の心構えについて指導しておく。
- 通信が遮断した時の情報の入手方法について指導しておく。
- 災害に備えた安全な生活空間の確保を普段から考えておく。
- 身近な住民に幼児児童生徒のことを知っておいてもらうなど、地域での連携を進める。

#### (2) 聴覚障害

- 体験的な学習や視覚情報を取り入れた、災害に対する理解を促進する。
- 周囲の人に声をかけて（聴覚障害者であることを告げ）周りの状況を教えてもらうことや、ヘルプカードを使って安全な場所や適切な機関への誘導を依頼できるようにしておく。
- 普段とはちがう避難所での生活の心構えや、周囲の人とのコミュニケーション手段について指導しておく。
- 聴覚障害者どうしの連絡方法や視覚情報の収集（文字放送対応携帯ラジオ等の活用）ができるよう指導しておく。
- 補聴器、専用電池を常に身近に置き、災害時に紛失しないための工夫と備えについて指導しておく。
- 身近な住民に幼児児童生徒のことを知っておいてもらうなど、地域での連携を進める。

#### (3) 知的障害

- 体験的な学習を取り入れた、災害に対する理解を促進する。
- 周囲の人に児童生徒の障害や支援の仕方が分かるヘルプカードを携帯することやその使用方法について指導し、安全な場所や適切な機関への誘導を依頼できるようにしておく。
- 普段とはちがう避難所での生活の心構えについて指導しておく。
- 定期的な服薬が必要な場合の薬や処方箋の準備をしておく。
- こだわりのある物、食料等への対応と備えをしておく。
- 児童・生徒が入所している施設等と緊密な連携がとれるようにしておく。
- 身近な住民に児童生徒のことを知っておいてもらうなど、地域での連携を進める。

#### (4) 肢体不自由

- 体験的な学習を取り入れた、災害に対する理解を促進する。
- 地震発生時、日常とは比較にならない障害物が発生した中での避難の仕方と身の安全を守る

方法について指導しておく。

- 周囲の人に声をかけて（肢体不自由者であることを告げ）周りの状況を教えてもらうことや、ヘルプカードを使って適切な機関への誘導を依頼できるようにしておく。
- 避難所生活に必要な生活用品（紙おむつ、食事用品等）の備えをしておく。
- 普段とはちがう避難所での生活の心構えについて指導しておく。
- 災害に備えた安全な生活空間の確保を普段から考えておく。
- 定期的な服薬が必要な場合の薬や処方箋の準備をしておく。
- 車椅子、装具、杖など、移動に必要なものを常に身近に置き、災害時に紛失しないための工夫と備えをしておく。
- 災害時に関係する施設や病院と緊密な連携がとれるようにしておく。
- 身近な住民に児童生徒のことを知っておいてもらうなど、地域での連携を進める。

#### （5）病弱・虚弱

- 体験的な学習を取り入れた、災害に対する理解を促進する。
- 児童・生徒の疾患の特性に配慮して防災学習の指導を行う。
- 児童・生徒の体調に合わせた避難方法について指導しておく。必要な場合はヘルプカードを使って安全な場所や適切な機関への誘導を依頼できるようにしておく。
- 普段とはちがう避難所での生活の心構えについて指導しておく。
- 定期的な服薬や特別な用具が必要な場合の薬等の確保と処方箋の備え、被災時の通院体制の確保について指導しておく。
- 災害時に病院や主治医と連携ができるよう体制を整えておく。
- 身近な住民に児童生徒のことを知っておいてもらうなど、地域での連携を進める。

#### （6）その他の配慮事項

- 地震発生時に、天井や窓ガラス等の落下物からの安全確保について、介助者が対策を講じておく。
- 定期的な服薬や通院が欠かせない児童生徒の、被災時の病院との連携や薬の確保について考えておく。
- 体温調節が不十分な児童生徒等が、避難所で体調管理ができる方法を考えておく。
- 日常生活に必要な生活用品（紙おむつ、食事用品等）の備えをしておく。
- 身近な住民に児童生徒のことを知っておいてもらうなど、地域での連携を進める。

#### 4 学習の展開例 「地震から命を守る」(特別支援学校)

##### 1 ねらい

- 地震のメカニズム等、災害や防災について理解することを通して、災害発生時に自分自身の安全を確保することの大切さがわかる。
- 災害発生時の様々な危険を知り、自分自身への身近な危険の一つとして災害を認識し、「自分でできること」、「他の人からの支援が必要なこと」など、災害から自らの安全や命を守る方法を着実に身に付けられるようにする。
- 災害から人々を守る体制があり、これらに従事する人々の願いや工夫に気付くとともに、自分自身も生活の中で生かそうとする態度を身に付けることができる。

##### 2 展開 (児童・生徒の実態に合わせて、各校種の指導教材を活用する。)

	学 習 活 動	留 意 事 項
導 入	<p>1. 災害(地震)について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地震発生のしくみについて理解する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレート、活断層、内陸部地震</li> </ul> </li> <li>○これまでに発生した地震について知る。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災</li> </ul> </li> <li>○震災と人びとの生活について知る。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災した人々の生活の様子</li> <li>・発生時の人々の努力や工夫(地震への日頃からの備え等)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地震の様子及び災害の様子や発生のメカニズム等について、模型や写真資料や新聞記事等を活用して提示し、防災学習への関心を高めるようにする。</li> <li>○ 一人一人の子どもの障害状況をふまえた実態に配慮し、恐怖心だけを与える学習に陥ることのないようにする。</li> <li>○ 日頃からの備えが必要なこと等、自らの安全や命を守ることの必要性への自覚を高められるようにする。</li> </ul>
展 開	<p>2. 地震発生時の対処の仕方を学ぶ</p> <p>[避難訓練]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分自身の安全を確かめる。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全確保の手立て</li> <li>・危険なものの把握</li> <li>・自分の避難に必要なものの確認</li> </ul> </li> <li>○ 地震発生後の2次災害について知る。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・火災発生の防止、津波からの避難</li> <li>・適切な避難の必要性、安全確保に向けた人々の願いに気づく</li> </ul> </li> <li>○ 防災学習交流会をする。 [ゲストティーチャー]               <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者</li> <li>・医師(学校医、主治医等)</li> <li>・施設の方</li> <li>・消防署の方</li> <li>・地域防災センターの方</li> <li>・震災体験のある方 等</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 指示に従い、落ち着いて必要な行動ができるように指導する。</li> <li>○ 地震発生時に、まず身を守るために、「机の下にもぐる」、「倒れやすい本棚等のそばから離れる」などの行動をさせ、特に頭部を守ることの大切さを指導する。</li> <li>○ 外出時は、「落ちてくるものから頭を守る」、「ブロック塀や電柱、電線などの危険なところから離れる」、「津波の恐れがある場合は、高い所へ避難する」等、具体的な行動を示し、安全確保ができるようにする。</li> <li>○ 地震後に発生する火災や津波が原因となって大きな被害につながることに気づかせ、発生後の適切な行動の必要性への関心を高められるようにする。</li> <li>○ 災害発生時に安全確保に取り組む人々や安全を願う人々の存在を知らせる場を設定する。</li> <li>○ ゲストティーチャーには、「安全確保に向けて大切にしていること」、「子どもたちに願うこと」等についての講話を依頼し、子どもが、安全確保の必要性を自覚できるようにする。</li> <li>○ 子どもの安全を確保するために、災害時の避難や連絡等の安全確保の体制について、家庭、地域及び関係諸機関との連携を深める効果的な場となるように工夫する。</li> </ul>
ま と め	<p>4. 防災について振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防災学習を通して気づいたことや、今後自分の安全確保に必要なことをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの学習や生活を振り返り、防災に向けて、今後自分ができることをまとめ、話し合う場を設定する。</li> </ul>

※ 関連教科(生活、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、自立活動)

## Ⅶ 地域の特性等を踏まえた防災教育の実施

### (1) 地域の特性を踏まえた指導

地域の特性を踏まえた防災教育は、学校で学んだことが、直接的にその地域で発生が想定される災害に対する避難行動につながる。また、子どもたちにとって身近な題材であることから、理解が深まりやすい。その地域で過去に発生した災害を取り上げたり、地域のハザードマップを活用したりして、子どもたちの生活に結びつけた指導をする。

### (2) 人間と自然との関わりに関する指導

子どもたちが、自分たちの住んでいる地域の地形や自然環境、社会環境、防災対策等を知らせることで、自然の脅威と向き合いつつ、自然の恩恵を受けて生活しているという、人間と自然との関わりについても指導する。

### (3) ハザードマップを活用した指導

ハザードマップの活用は、あくまでも目安であり、ハザードマップの想定を超えることも起こりうることを指導する。併せて、災害発生時には、状況を見て判断することの大切さについても指導する。

## Ⅷ 防災教育の指導内容（例）

### (1) 視聴覚教材、映像教材等の活用

- ・小中高生用DVD「災害から命を守るために」（文科省平成20・21・22年）
- ・「ふくいけんの自然災害 いのちをまもるために」福井県土木部 平成23年9月

### (2) 防災講話

- ・自然災害のメカニズム、災害の要因、過去の災害、災害時の危険、的確な避難行動、日常の備え、住宅の耐震化についてなどの講話
- 講師：大学教授、県及び市町の防災担当者、消防署員、防災士等

### (3) 地震体験

- ・防災センターでの起震体験車での地震体験

### (4) 実験

- ・液状化現象、住宅の耐震化の効果、家具の転倒防止等確かめる実験

### (5) 防災マップの作成

- ・町探検で防災関係の調べたことや気づいたことや写真などでの地図づくり  
(例) 3、4年社会 身近な地域の学習において、防災をテーマとし、観察・調査して調べたことを絵地図や白地図などにまとめる。(防災マップづくり)

### (6) 学習発表会、文化祭等での防災に関する発表・展示

教科や総合的な学習の時間などで防災について学習したことの発表・展示

### (7) 消火訓練、煙体験

- ・消防署の協力を得ての消火器の使い方訓練や、煙体験

### (8) 災害体験授業

- ・災害時の非常炊きだし、人命救助体験、ロープワーク 等

### (9) 救急法等の講習

- ・応急手当、心肺蘇生法 等 (消防署、日本赤十字者等の協力を依頼)

### (10) 地域と連携した防災訓練

- ・地域住民の参加を得ての炊き出し、消火訓練、煙体験 等

### (11) 避難所体験

- ・炊き出しや体育館での宿泊等避難所体験 (子ども、教職員、地域住民が参加)

## IX 教職員の研修

防災教育を充実するためには、教職員の防災教育に関する指導力を向上させることが必要である。また、指導の効果を高めるには、日頃から防災に関する情報交換を行うなど教職員の共通理解を深め、学校で一貫した指導を行うことが重要である。

### (1) 防災教育に関する研修

- ・ 防災教育に関する指導案の検討と授業参観
- ・ 文部科学省 DVD「災害から命を守るために」を活用した研修
- ・ 防災に関する研究指定校の視察、伝達講習
- ・ 教育委員会や防災関係機関が開催する研修への参加
- ・ 外部講師を招いての校内研修
- ・ 地域のハザードマップを活用した防災マップづくり

### (2) 地域や関係機関・団体と連携による人材の活用

- ・ 避難訓練への指導助言、防災に関する講話 等
- ・ 地域の災害を体験・災害に関する言い伝えを知っている人の講話 等

## X 防災教育に活用できる資料

### (1) 学校安全全体に関するもの

- ・ 学校安全参考資料「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」  
(平成 22 年 3 月 文部科学省)

### (2) 教職員の研修に関するもの

- ・ 小学校教職員用研修資料 DVD「子どもを事件・事故災害から守るためにできることは」(平成 21 年 3 月 文部科学省)
- ・ 中学校・高等学校教職員用研修資料 DVD「生徒を事件・事故災害から守るためにできることは」(平成 22 年 3 月 文部科学省)
- ・ 「子どもの心のケアのために」災害や事件・事故発生時を中心に  
(平成 22 年 7 月 文部科学省)

### (3) 児童生徒等の指導に関するもの

- ・ 小学生用防災教育教材 CD「災害から命を守るために」  
(平成 20 年 3 月 文部科学省) 【低学年用】 【高学年用】
- ・ 中学生用防災教育教材 DVD「災害から命を守るために」  
(平成 21 年 3 月 文部科学省)
- ・ 高校生用防災教育教材 DVD「災害から命を守るために」  
(平成 22 年 3 月 文部科学省)
- ・ 気象庁 津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」

## XI 防災教育に活用できるホームページ一覧

- ・ 気象庁 気象、地震、津波等の情報  
<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>
- ・ 気象庁 きつずコーナー「e-気象台」  
<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/e-jma/index.html>
- ・ 防災情報のページ（内閣府）  
<http://www.bousai.go.jp/>
- ・ 地震調査研究推進本部地震の基礎知識  
<http://www.jishin.go.jp/main/index.html>
- ・ 東京大学地震研究所地震予知情報センター  
<http://www.eic.eri.u-tokyo.ac.jp/index-ja.html>
- ・ 内閣府防災担当「みんなで防災」のページ  
<http://www.bousai.go.jp/minna/>
- ・ 稲むらの火と地震対策  
<http://www.inamuranohi.jp/>
- ・ 防災教育チャレンジプラン  
<http://www.bosai-study.net/top.html>
- ・ スマトラ沖地震とインド洋大津波に関する内外の情報や映像の閲覧  
<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/ka8001/sumatra.html>

## 参考・引用文献

### ○文部科学省

- ・学校防災マニュアル（地震・津波災害）作成の手引き  
（文部科学省：平成24年3月）
- ・こどもの心のケアのために 一災害や事件・事故発生時を中心に—  
（文部科学省：平成22年3月）

### ○他道県教育委員会

- ・学ん DE 防災（北海道）
- ・学校防災に関する手引き（茨城県）
- ・学校における防災教育指導教材（神奈川県）
- ・防災シート（三重県）
- ・学校における防災教育・安全指針（和歌山県）
- ・学校防災マニュアル（兵庫県）
- ・学校防災マニュアル（高知県）
- ・学校防災管理マニュアル（徳島県）